

平成25年度 水と緑の探検隊（1回目）の実施結果について（報告）

日時・場所：平成26年2月22日（土）13:00～15:30・川崎市立緑ヶ丘霊園内（高津区下作延1241）

実施概要：森の観察と外来植物の駆除、湧水池の観察とメダカの放流

講師：岸由二氏（「エコシティたかつ」推進会議委員長、慶應義塾大学名誉教授）

参加者：参加者4名、事務局5名（武田副区長、宮川課長、佐藤係長、小島、荒井）

TRネット事務局4名、計画技術研究所1名

1. 森の観察

歩道脇の森や、今後水と緑の探検隊で手を入れていく予定の谷戸の森を観察。

1) 歩道からの観察

- シラカシやシロダモなどの常緑樹が多くみられる場所では、林床が暗く、下層植物があまり見られない。このような場所では、水の保水力が弱く、大雨により土が流れ出しやすい。
- 一方、落葉樹が多く林床が明るい森では、アズマネザサ（シノダケ）などの下層植物も繁茂している。このような場所は、下草や堆積した落ち葉などで一旦雨を受け止めるため、保水力が高く、土の流出も少ない。また、このような場所にはたくさんの生きものが棲む。



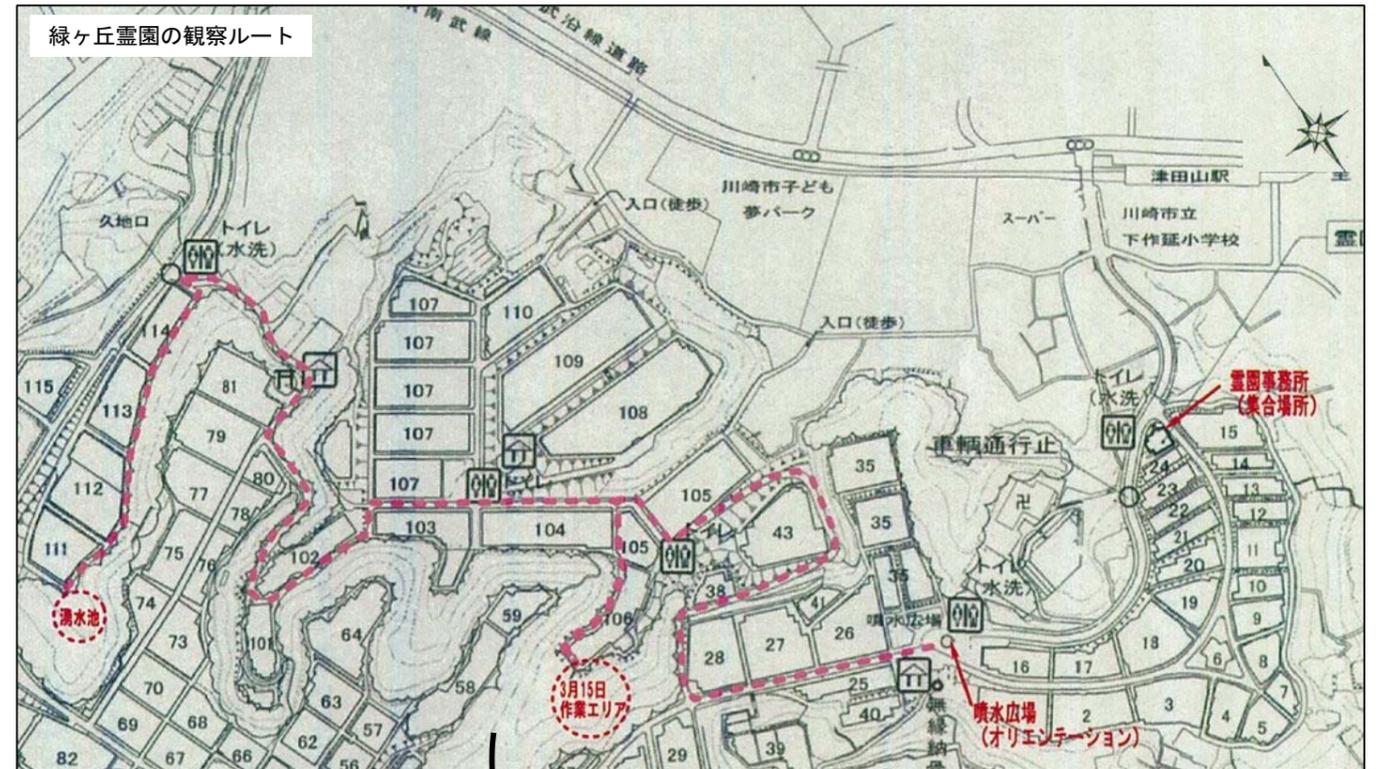
2) 作業予定の谷戸の観察

- スギやシラカシ、シュロ、アオキなどの常緑樹に覆われ、林床が暗く、下層植物があまり見られないため、保水力が弱い。
- 保水力のある明るい森にするためには、スギやシラカシを間伐し、シュロやアオキを取り除いて林床を明るくする必要があります。林床が明るくなれば、谷戸の上部にわずかに残っているアズマネザサも回復し、森の保水力を向上させることができる。
- 樹木の伐採後、下層植物が回復するまでは、一時的に雨に対して保水力が低下するため、伐採した樹木を活用したカントリーヘッジを数カ所設置し、土砂の流出を防ぐ。



2 外来植物の駆除

- 作業予定の谷戸の入り口付近に繁茂している要注意外来生物であるトキワツユクサ（南米原産）の駆除を実施。
- 通常は根ごと抜き取り駆除するが、低温に弱いことから、先週の大雪で付近に残っていた雪で覆うことにより駆除を試みた。
- 対策前と対策後が比較できるように、一角だけを残して雪で覆う作業を参加者全員で実施した。次回の探検隊（3月15日（土））で駆除の状況を確認する。



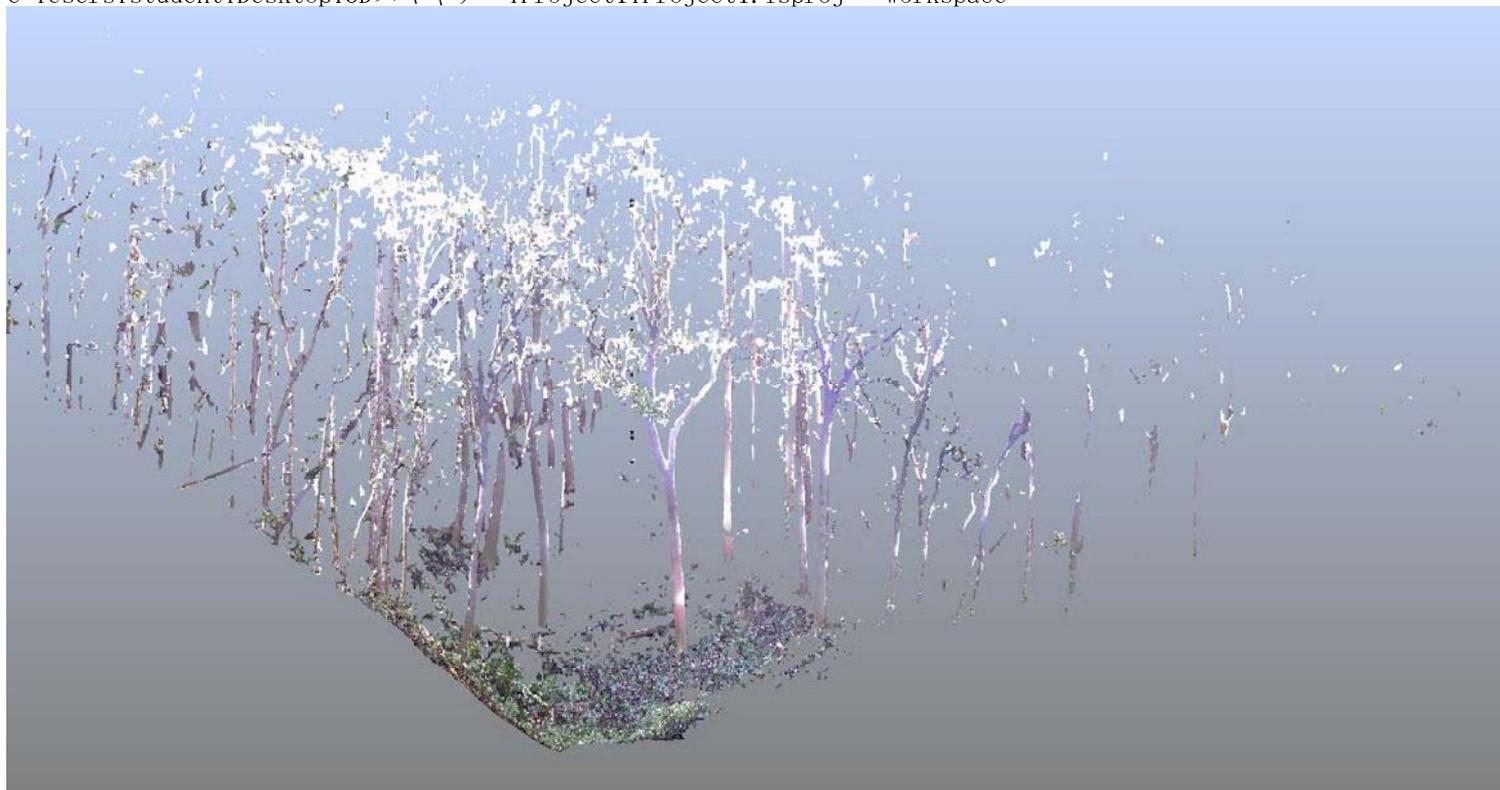
2. 湧水池の観察とメダカの放流

- 湧水池ではアメリカザリガニ以外の生きものがほとんど見られなかった。
- 生きものが少ないため、参加者でメダカを放流した。
- メダカを放流することで、メダカを食べるギンヤンマのヤゴが棲むなど、生きものの多様性の向上が期待できる。



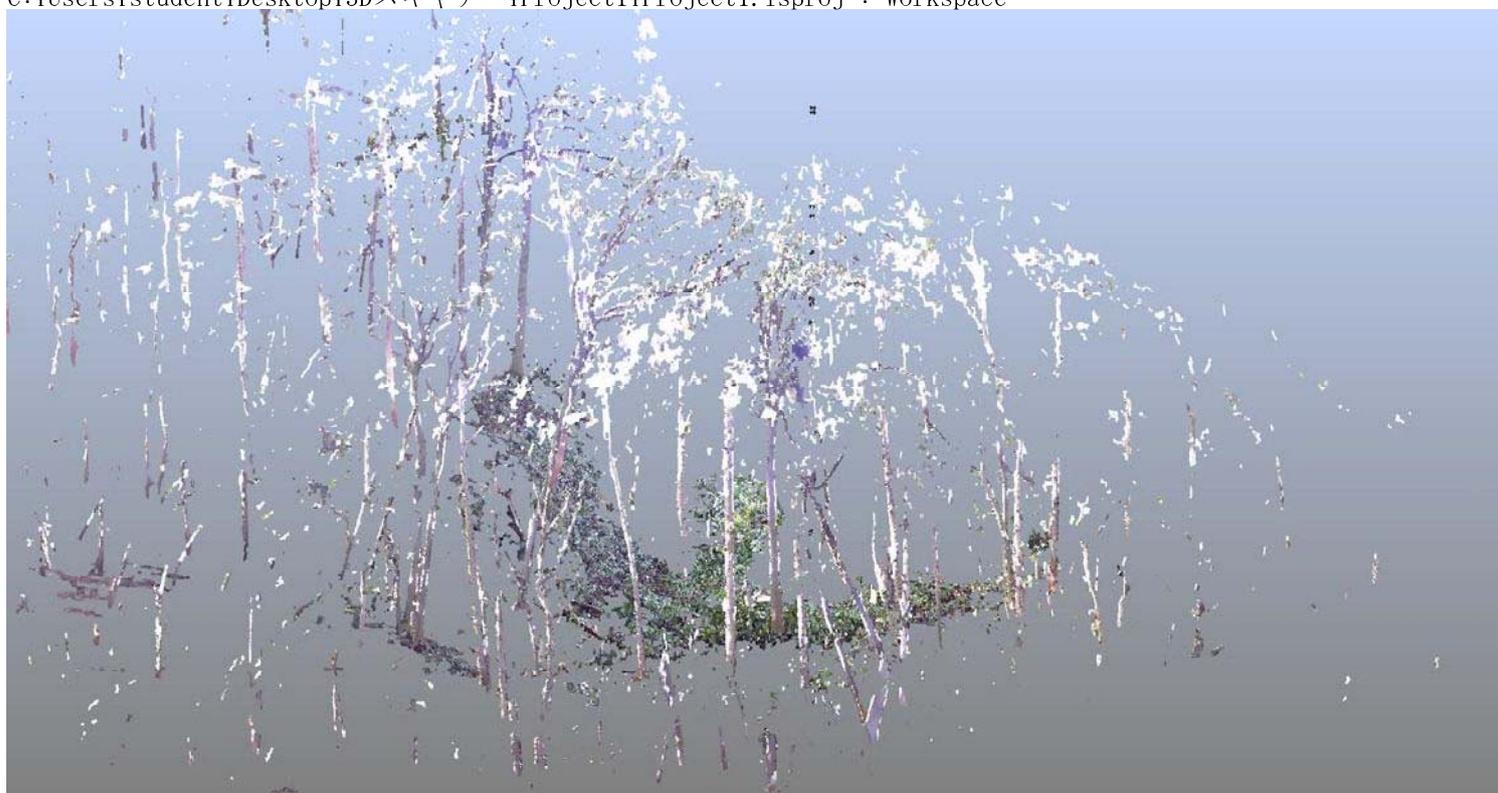


C:\Users\student\Desktop\3Dスキャナー\Project1\Project1.lsproj : Workspace



View: 231° -1° w: 10° Pos: 330.68 279.03 58.45

C:\Users\student\Desktop\3Dスキャナー\Project1\Project1.lsproj : Workspace



View: 338° -45° w: 8° Pos: 117.22 -297.80 359.86